

# "生命の源" を大切にしていますか

8月1日は「水の日」



## 家庭用水

一人一日当たりの使用量  
175リットル ビールビン276本分

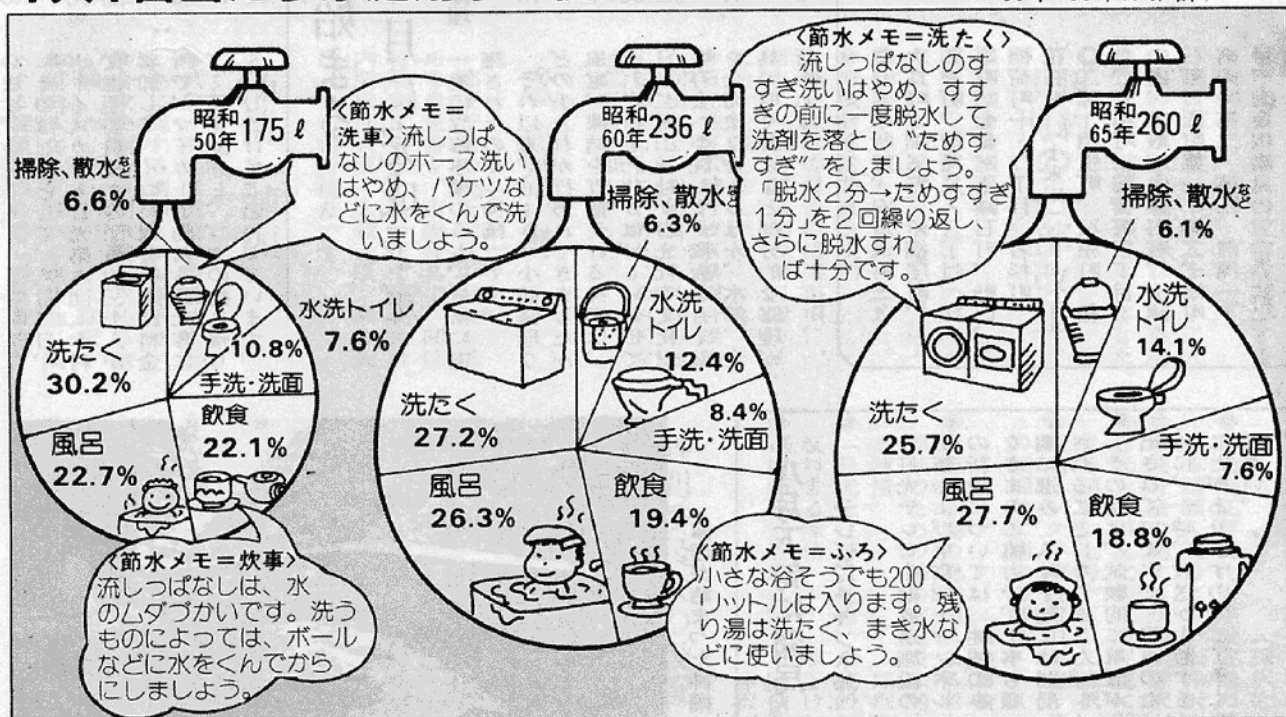
いま、わたしたちは、家庭でのくらの水を使っているのでしょうか。  
昭和五十年の全国平均で見ますと、一人一日当たり百七十五リットルで、ビールビンに換算しますと約二百七十六本分に相当します。

水がわたしたちの暮らしに欠かせない大切な「生命の源」であることは、いまさら言うまでもありません。  
水道の水が止まったら、家庭で、学校で、病院で、工場で——わたしたちの生活はいたるところで立ち往生します。  
ところが、こうした水の大切さを頭では理解していても、ふだんの生活ではまだまだムダに水を使っている面が少なくありません。  
八月一日は「水の日」、この日から一週間は「水の週間」です。  
夏場は、一年のうちでも最も水を多く使う季節です。いま一度、暮らしの中の水の大切さを見直しましょう。

昭和四十年の一人一日当たり水の消費量は九十六リットル、ビールビン約百五十一本分ですから、十年間で約一・八倍と、二倍近くも家庭用水の需要が増えていきます。今後も家庭用水の使用量は伸びるものと予測され、国土庁の推計によりますと、一日一人当たり、昭和六十年には二百三十六リットル、六十五年には二百六十リットルと昭和五十年の約一・五倍になっています。  
しかし、水道の水には限りがあります。そして、ダムによる水源の開発には、水源地の人びとの協力、多額の建設費、長い歳月が必要です。  
つくられる水道の水——いまこそ、わたしたちは、ふだんの生活の中でムダのない合理的な水利用を実践していく必要があります。

## 1人1日当たり家庭用水の使用量と用途別内訳

(昭和50年実績、60年・65年は推計)



〈資料〉 国土庁「日本の水」